

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<国際食料情報学部国際食農科学科> (認定課程 高一種免 (農業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	一社会人として常識的な考えや活動が遂行できる基礎を構築するとともに、自分が教員として社会にどのように還元したいかを考えさせ、将来の目標を明確にする。さらに基礎的専門科目の学修を通じて自然環境、生活環境および社会環境の関係性等の幅広い教養的知識を身に着ける。入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布及び説明、4月教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修に係る意欲向上を目指す。
	後期	教職課程科目を配置し、教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対して個人の考えでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進める現実を十分に理解させるとともに、該当中心年齢だけでなく、幅広い年齢層、性格、行動の理解、補助できる能力を身に着ける。さらに生産から加工・流通・消費に至るプロセスに関する理解を深める。履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力についての確認および理解を目指す。
2年次	前期	1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。さらに、教科科目として農業生産や農産物の食品栄養学的特性に関わり、より発展的な知識を学ぶための科目を配置し、理論的な知識を深化させる。さらに、食農文化の価値や機能を学び、地域社会における固有の食農文化資源を活用するための実践的な手法を習得する。これらを通じて、食農分野をめぐる、自然科学・社会科学両面からのアプローチで教育活動を行える基礎的な能力の向上を図る。現職、元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。
	後期	学生に対する具体的な対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置するとともに、農業教育には世界的な視野が欠かせない、世界各地の環境とそれをもとに展開してきた植物利用と作物の成立プロセスについて学ぶ。さらに、農作物に限らず動物性食品、発酵食品など幅広く食品の特性、社会科学的科目を受講することにより、農協、生協といった組織や諸制度が食農に関わる事業や経営に果たす機能について知ること、課題解決能力を養成し、農業の社会的な意義や役割について理解する。
3年次	前期	教育専門性を高めるとともに、多様な学生に対して人としての考えや行動を伝える能力向上を目指す。さらに、農業生産と生産物の加工に関わるより高度な知識と果樹の生育に関する知識を深め、農村を中心とした地域の経済や社会を活性化するための理論と実践方法を習得し、教育における実践的な手法についての能力を獲得することで、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けさせる指導法を育成する。教育実習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。
	後期	農業に関する専門的知識・技術の修得に加え、専門高校における職業指導の役割と指導法を学び、専門分野を確立するためのスキルと知識を修得させる。さらに、自然環境が及ぼす影響についてより深く理解し、その調節技術や農業生産の特色についてより深く理解するとともに、すぐれた経営体の創出や管理・運営に関する理論的実践的な知識を習得し、教育活動における専門性と応用力の養成を図る。教育実習などを見据えて、農業高校教員の講義や講演会、各種ガイダンスを用意し、農業におけるスペシャリストとしての専門性の基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせる指導法を育成する。
4年次	前期	教育実習に参加し、教職現場を体験するとともに教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、「卒業論文」のための調査・実験を開始し、その過程で理解力、調査能力、計画能力、実験能力(実行力)、考察力など各種能力の向上に努める。
	後期	4年次前期に続き卒論研究を遂行し、また、食と農に関する様々なメディア上での情報を科学的に考察する方法の習得を通して課題発見および解決する能力の習熟する。そして情報発信能力を身につけることで、農業に関する課題を見付け、自分自身や社会のものとして解決する態度と身に付けた知識と技術を活用する指導法の修得を目指す。